

だから、いまにあの頃の氣候になつたら一層思ひ出が深まり、私の心持は楽しむ事だらうと思ひます(中略)今夜は秋の夜らしくはれて涼しい、その空に、三百幾年目とかに一べんの大接近を地球に対して今日の午前にして、世界の天文学者を騒がせ、もうまた少しづつ遠ざかりつゝあるさうな火星が、さりげなく火の色に冴えてゐます、この星は神戸でも見えるでせう。

もう父上のお帰日も数日の後でせう、また目黒も賑かになります。鈴木氏へも御無沙汰してゐます、どうも私は拝啓陳者流の手紙が不得手なので、存じながら御ぶさた勝ちです。あしからずおゆるし下さるやうおつたへ下さい(後略)

目黒にて 厚一

火星が地球に一番接近したといふ

八月二十日あまり三日夜

三千代殿

■(大正13年)十月十三日

鈴木宇太郎宛

海野 厚一

拝啓漸く秋晴れの折柄御健勝羨望に不堪候

さて過日は亮之助欣也宛御丁寧なる御見舞状頂戴恐入候

なほ亦 本日は御収獲になる松茸澤山に御恵送下され 今日早朝聊かの損壞もなく到着 早速 朝食より一同香り高きを賞味いたし候 為めに今朝は父の食事 軽きながら一腕殖え候等 重ねくの喜びにて御芳志厚く御礼申上候

父事 今回は 一時は衰弱甚だしく心痛いたし候へどお陰様にて

この頃はおひくゝに力づき 最早心配なる域は経過致し候様に見へ候へば何卒御安緒願度 なほ一兩日中には専門に看護する者も参る筈に候へば自然人手も殖え看護にも手が廻るわけに候 小生はまた 今回の臥床は脱肛など、いふどうでもよき臨時の出来事にて その辭数日間はなかゝの苦痛を味ひ候 然し幸ひにこれも自然治癒に近づき一兩日中には平常と変りなきやうに相成べくと存じ候へばこれ亦御放神願上候 本日など湯茶が飲みたきなどの用は自身動きて便じをり候

さて最後に一寸御伺ひ申度事有之候 いつぞや三千代より、外国より毛布をお買求めなされ候様仄聞いたし候様覚え候が都合よろしくば一つ御手数数お願ひ申さんかとも存をり候ま、御手数ながら御序の節左の様の事御教示願度候(中略) 実はこの冬の父の為に一つ用意いたさんかと愚考いたし候ま、勝手なお願ながら右御伺申上候 三千代よりも心にかけて候て 度々見舞状貰ひ候へども最早決して心配は無用と存候へば 決して気にせぬやうよく御きかせ願上候 少々疲れ候へば書放しにて読返しいたさず候 御判読乞上候 先は御礼芳々御伺ひまで 勿々不備

十月十三日夕刻

宇太郎様

厚一

且今大久保叔母及び欣也参りをり父上は梨を食べながら 元氣よく談笑いたしをり候